

岩手県立杜陵高等学校遠隔授業配信施設整備事業

事業概要書

設計・施工者一括選定方式による公募型プロポーザル資料

令和 8 年 10 月

岩手県教育委員会事務局教育企画室

第1 事業の目的

県立高等学校における教育の改革を推進するため、生徒の学びの機会の保障に向けた遠隔教育及び多様な学びの場を確保する先導的な取組を行う拠点校として、岩手県立杜陵高等学校に遠隔授業配信施設を整備する。

第2 施設整備概要

項目	内容
事業名称	岩手県立杜陵高等学校遠隔授業配信施設整備事業
発注者	岩手県（岩手県教育委員会）
対象校	岩手県立杜陵高等学校
事業方式	設計・施工者一括選定方式（公募型プロポーザルにより契約候補者を特定）
計画建物	①既存施設の解体 給食棟（鉄骨造・平屋・延べ面積 817.01 m ² ） ②解体した前①の施設跡地に遠隔授業配信施設を新築する
構造・規模等	木造、鉄骨造又は鉄筋コンクリート造とし2階建て延べ面積 1,000 m ² 程度 「ZEB Ready」相当以上（太陽光発電設備は不採用）
主な機能	遠隔授業専用スタジオ、学習支援相談施設
建設予定地	岩手県盛岡市上田二丁目3番1号
履行期間（予定）	（1）設計業務 令和9年1月中旬から11月10日まで （2）建設工事 ア 解体工事 令和9年7月から11月まで イ 新築工事 令和9年12月から令和11年3月まで （3）監理業務 ア 解体工事監理業務 令和9年7月から11月まで イ 新築工事監理業務 令和9年12月から令和11年3月まで
供用開始	令和11年4月

Site plan of the Nishikubo Campus. The plan shows various buildings including the Main Building (main hall, lecture hall, library, etc.), a yellow-shaded building, a gymnasium, a sports field, and a large outdoor area. A compass rose indicates North is towards the top right. Dimensions and other site details are noted around the perimeter.

第4 施設整備の基本方針等

(1) 本施設は、県立高校の実習施設に準じて標準以下の仕様で建設する。

なお、各スタジオに設置する遠隔授業設備及び各教室等の備品は別途発注する。(工事対象外)

(2) 生徒及び教職員が安全かつ円滑に実習でき、視認性、動線、保守管理性に優れた環境を目指す。

第5 諸室の目的・用途

別に定める要求水準書による

第6 予算限度額

本事業における契約額の合計は、委託費及び工事費のそれぞれについて、原則として下表(1)予算限度額に掲げる金額を上限(減額しない)とする。

ただし、工事費は、建設資材等の高騰その他の建設工事費が増加する要因を踏まえ、建築面積の減調整などを含め見直す場合がある。

(1) 予算限度額

委託費・工事費	R 8	R 9	R 10	計
委託費(設計業務・工事監理業務、地質調査業務、各種法令に基づく申請手数料を含む。)	740 万円	5,099 万円	1,887 万円 (予定)	7,726 万円 (予定)
工事費(建築・電気設備・機械設備工事)	-	6,940 万円 (予定)	47,750 万円 (予定)	54,690 万円 (予定)

(2) 他の事業費(本プロポーザル適用外。参考として明示する。)

項 目	事業費
遠隔授業設備	9,362 万円
各教室等設備	863 万円
教育情報ネットワーク整備(LAN)	1,000 万円
合 計	1 億 1,225 万円

【岩手県】生徒の学びの機会の保障に向けた遠隔教育等の拠点形成

岩手県立杜陵高等学校
(定時制/普通科)

アド	理数	多様
		○

- 県立高校再編計画において、学ぶ機会の確保のため小規模校を一定の条件のもと地域校として維持する方針としたが、教員数が限られる中、生徒の興味・関心・進路希望等に応じた科目の開設に課題があり、学校規模によらない教育環境の構築が必要。
- 併せて、多様な背景を有する生徒も増加する中で、生徒の学びの機会の保障と質の保証に向けた学習支援体制及び学校支援体制の構築が急務。
- 遠隔授業の配信センターであり定時制高校として多様な生徒を受け入れてきた杜陵高等学校を拠点校とし、配信拠点機能等の拡充による授業の充実、生徒の学習ニーズに応じた遠隔の教育支援を行う運用モデルの創出・普及、不登校等の生徒が学校に安心して通える環境整備に取り組む。

人材育成の現状・課題

- ・ 県土が広域で中山間地域が多く、人口減少に伴い高校の小規模化が進行する中、いわて留学により県外からも進学者を受け入れ。
- ・ 各校の教員定数が減少する中においても、幅広く科目を開設して、生徒の進路実現や人材育成の充実を担保することが課題。
- ・ 不登校など多様な背景を有する生徒が増加傾向にある中で、生徒の心のサポートに十分に対応することができない現状。

《中学校卒業者数推計》令和7年 9,715人 → 令和21年 5,310人
 《1学年1学級校の数》12/59校（県立全日制高校の20.3%）
 《いわて留学による県外からの入学者数》令和8年度54名
 《不登校生徒数（国公私立高校）》（令和6年度文部科学省調査）
 666人（1000人あたり23.7人 全国平均23.3人）

具体的な事業内容

【拠点における主な改革目標】

県内のどの学校に在学しても自分の可能性を広げることができるよう、配信機能及び不登校等多様な背景を有する生徒への支援の拡大を図る

【施設・設備の整備】

- ・ 配信拠点として遠隔配信センターを新規に整備し、センター内の配信専用スタジオ等を整備
- ・ 不登校生徒等が利用できる個別相談スペース、フリースペース等を整備
- ・ 多様な学びに対応する仮想空間を整備

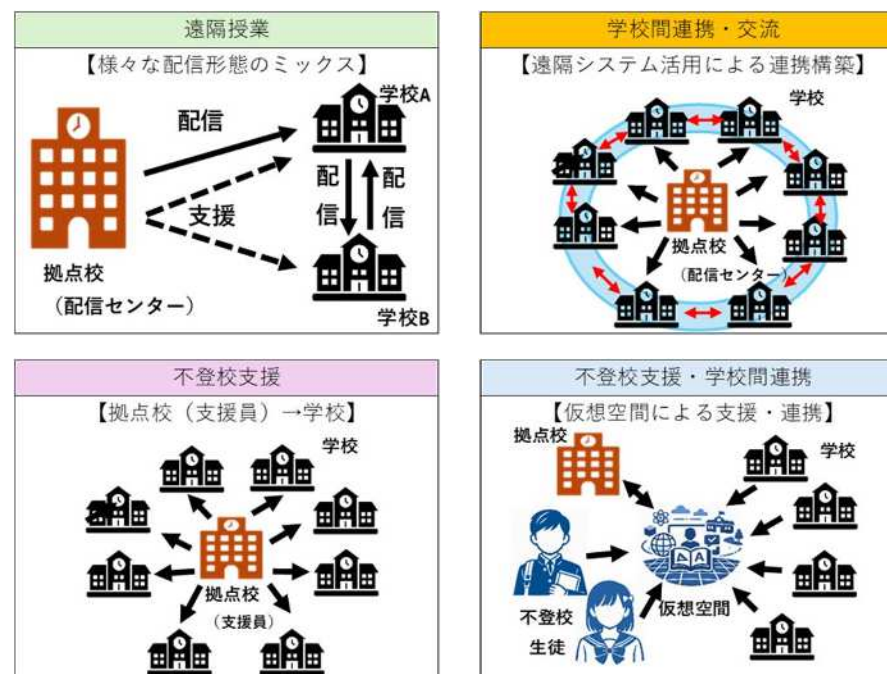
【取組内容】

- ・ 小規模校における教科・科目充実型の遠隔授業の展開
 - ・ 拠点校の支援により学校間で遠隔授業を行うことができる体制づくり
 - ・ 拠点校の支援員による不登校支援（ケース会議等での助言、教員支援等）
- 【他校への普及方策】
- ・ 学校間でも実践可能な「学校連携型遠隔授業運用モデル」として県内へ展開
 - ・ 探究活動や定時制高校間の生徒交流など、学校間の連携、交流の場を創出

実施体制

協力校	遠隔授業受信校（R8年度時点7校） 県立定時制・通信制高校
主な連携機関等	岩手大学、岩手県立大学、NPO法人カタリバ

事業概念図



配信センター及び仮想空間の整備による遠隔授業、不登校支援、学校間連携の充実